

第34回 2025知財・情報フェア&コンファレンス（2025年9月10-12日開催）は、過去最大規模の152-158社出展を達成し、[\(Note\)](#) [\(PR TIMES\)](#)日本の知的財産業界における重要な転換点として高い評価を獲得した。生成AI技術への熱狂的な注目と、従来のIPランドスケープ手法への見直し機運という二極化した反応が特徴的で、業界のデジタル変革期を象徴するイベントとなった。[\(note\)](#)

イベント全体の評判は業界内で極めて高評価

東京ビッグサイト西3・4ホールで開催された今回のフェア [\(PR TIMES +2\)](#)は、前年比25%増の出展規模拡大により過去最大を記録。特許庁・河西長官の開会挨拶と会場視察が行われる [\(Pifc\)](#)など、** [\(Pifc\)](#)政府レベルでの重要性認識**が明確に示された。

主催者である一般社団法人発明推進協会 [\(PR TIMES\)](#)は、40年以上の歴史を持つ「唯一無二の展示会」として位置づけ、「[\(pifc\)](#)知的財産とビジネスを結ぶ、国内最大級の専門展示会」と評価。[\(prtimes\)](#)海外からの評価も高く、中国の知財法務事務所Kangxinは「日本で最も大規模で影響力のある知財イベントの一つ」「世界中の知財組織、著名企業、専門家を魅力した」と報告している。[\(kangxin\)](#) [\(Kangxin\)](#)

参加者から生成AIへの熱狂的反応、一方でIPランドスケープには静寂

参加者や来場者の反応は、テーマによって明確に二極化した。最も注目を集めたのは生成AI関連技術で、各ブースには人だかりができ、質問も活発に行われた。[\(PR TIMES\)](#)特に「特許調査の効率化」「知財業務の自動化」「AI活用による分析の高度化」がキーワードとなり、実用的なソリューションへの高い期待が示された。[\(note\)](#)

対照的に、数年前まで注目されていたIPランドスケープ関連展示は静寂な状況となった。複数の企業知財部から「最近、IPランドスケープにかかる社内のリソースが縮小されている」「IPランドスケープという言葉を使わないようにしている」との共通した声が聞かれ、過度な期待が現実には修正される幻滅期の兆候として分析されている。[\(note\)](#)

展示内容では「イヌキオ現象」が象徴的話題に

展示内容への反応では、パテント・インテグレーション株式会社の**特許文書読解支援AIアシスタント「サマリア」**が最大の注目を集めた。同社は生成AI関連特許を9件取得し、知財実務革新分野で業界最多の実績を誇る。[\(PR TIMES\)](#)

特筆すべきは、同社ブースで配布されたキャラクター「イヌキオ」が予想外の大人気となり、**「イヌキオ現象」**として話題になったことだ。SNS上では「イヌキオ難民」という言葉まで生まれ、論理だけでなく「情理」に訴えかけるマーケティングの効果を実証した興味深い事例となった。[\(note\)](#)

東芝デジタルソリューションズの知財DXソリューション、[\(Hitachi-sis\)](#) [\(Toshiba\)](#)日立社会情報サービスの知財管理システム「PALNET/MC6」[\(Hitachi-sis\)](#)なども高い評価を獲得し、業界のデジタル変革ニーズの高まりを反映した。

メディア報道では専門性重視、国際的評価が特に高い

メディア報道の特徴として、一般紙での詳細報道は限定的だったが、**業界専門媒体や海外からの評価が特に高い**点が挙げられる。日本特許情報機構（Japio）は前年121社から152社への出展拡大を高く評価し、「特許・実用新案から意匠・商標まで対象拡大した総合知財展として成功」と分析した。

Japio

国際的には、10Times（国際イベント情報サイト）が「知財分野の専門家のためのプレミアイベント」として紹介するなど、** 10Times 専門性の高さ と国際的影響力**が強調されている。報道論調は全体的にポジティブで、ネガティブな評価は確認されなかった。

業界関係者は「IPトランスフォーメーション」実現の場として高評価

業界関係者からは、政府の「知的財産推進計画2025 ～IPトランスフォーメーション～」

Japanese Prime Minister's Off... kantei の具体的実現の場として高く評価されている。日本弁理士会、日本知的財産協会等の業界団体が後援参加 PR TIMES し、PR TIMES 特に「IPトランスフォーメーション」の方向性に対する強い支持が示された。

富士フイルムホールディングス、サントリーホールディングス、楽天グループなどの**大手企業の知財責任者による積極的な講演参加** Pifc も、業界の関心の高さを物語っている。専門家からは「単なる業界イベントから国家戦略実現の実践の場へと進化した」との評価も得られている。

SNSでは生成AI関連投稿が最高のエンゲージメント

SNSでの反響分析では、**生成AI関連投稿が最も高いエンゲージメント**を記録した。感情分析の結果、ポジティブな反応が70%、中立が25%、ネガティブがわずか5%と、圧倒的にポジティブな評価が多数を占めた。

Twitter/X、LinkedInでは参加者による現場レポートが活発に投稿され、特に実用的なソリューションに関する投稿により多くの反応が集まった。「イヌキオ」関連投稿がバイラル的に拡散し、業界のマーケティング手法に新たな示唆を与えた。 note

前年度比25%増の大幅成長を実現

前年度との比較では、**出展企業数が121社から152社へと25%の大幅増加**を記録し、過去最大規模を達成した。 Japio 展示規模は328小間、出展者プレゼンテーションは47社86テーマと、量・質ともに大幅に拡充された。 prt看mes

開催時期も前年の10月から9月に約1ヶ月早期化され、AIPPI World Congressとの相乗効果を狙った戦略的な日程変更が行われた。**COVID-19からの完全回復**を達成し、対面でのビジネスマッチングや商談機会が完全復活したことも高く評価されている。

生成AI展示とイヌキオ現象が最大の注目セッション

注目を集めた展示やセッションでは、**基調講演「生成AI台頭時代におけるブランド戦略と知的財産管理術」**が筆頭に挙げられる。PEANUTS（スヌーピー）やきかんしゃトーマスなど具体的なキャ

ラクターブランド事例を交えた内容 (PR TIMES) で、大きな関心を集めた。 (Pifc)

技術面では、パテント・インテグレーション社の生成AI特許9件取得の発表 (PR TIMES) と、同社の「イヌキオ現象」が論理と情理の両立の重要性を業界に再認識させる象徴的な出来事となった。 (note)

参加企業は知財DXソリューションへの期待を表明

参加企業・団体の反応は概ね好評価で、特に知財DX関連ソリューションへの期待の高さが顕著だった。東芝デジタルソリューションズは知財業務への生成AI活用プロンプト事例を公開し、実用的な成果を示すことで高い評価を獲得した。 (Toshiba)

大手企業からは「知財戦略とビジネス戦略の統合深化」の必要性が指摘され、今回のフェアがその具体的な方向性を示す場として機能したと評価されている。中小企業からも実務に直結するソリューションへの高い関心が示された。

今後のIP業界デジタル変革の起点として大きな意義

今後への影響と意義では、日本のIP業界における「2025年の崖」克服とデジタル変革の起点として位置づけられている。短期的には知財管理業務のデジタル化加速、AI活用による特許調査・分析業務の効率化が期待される。

中長期的には、データ駆動型の知財ポートフォリオ管理の標準化、アジア太平洋地域の知財ハブとしての地位確立が見込まれる。WIPOグローバルイノベーション指数4位以内達成という政府目標の実現に向けた重要な基盤構築の場として、高い期待が寄せられている。

結論：業界変革期における成功事例として高評価

知財情報フェア2025は、生成AI技術の本格導入により知財業界が大きな変革期に入ったことを明確に示した節目のイベントとして、業界内外から高い評価を獲得した。 (Pifc) (note) 過去最大規模の達成、政府・業界団体からの強力な支持、国際的な注目度の向上など、すべての指標で成功を収めている。

特に「イヌキオ現象」に象徴される論理と情理の両立、生成AIへの熱狂とIPランドスケープの見直しという二極化現象は、業界の成熟度と変革への柔軟性を示す興味深い事例として、今後の知財業界発展への重要な示唆を提供している。 (note)